

参 考 资 料

－ 検討会担当講師の所感 － (県地域防災アドバイザー 村野氏)

今般、開催された避難体制検討会では、新たに土砂災害警戒区域等として指定された地域であったせいか、当初は、地域住民の災害に対する防災意識の希薄さ、もしくは対策が充分でないにもかかわらず危機管理が来ているとの認識に危うさを感じました。

また、災害時要援護者への対応がおざなりになっており、組織的な防災活動（災害への十分な備え）の啓発を徹底することの必要性を再確認しました。

特に、地域住民の、自治体、消防・警察などへの依存体質は早急に改善し、有事には、公的機関が災害対策にリソースを傾注、専念できる体制を構築する必要があると思われます。

ただし、検討会実施後は、土砂災害というテーマが絞られていることで、参加者が講話やワークショップを通じて災害をイメージし、危機管理と自主防災活動への意識高揚の手応えを感じ取れました。

地域住民が主役である検討会の実施は、前述の防災意識の高揚と組織的自主防災活動を推進する上で有効な手段ですが、地域に内包する災害と防災活動には地域特性が大きく影響します。よって、地域防災推進員やアドバイザーによる、具体的な防災活動の進め方や地元集落同士と自治体、関係機関の連携、活動のモチベーション維持などといった、きめ細かなフォローアップを実施することで、確実な避難体制の構築が可能になるであろうと思われます。

(村野 剛 県地域防災アドバイザー)



天城町兼久集落での説明の様子（写真右）



－ 検討会担当講師の所感 － (県地域防災アドバイザー 馬渡氏)

私が担当した北薩地域について報告いたします。

現地を訪れての第一印象は、山間部の過疎地区で限界集落のようであり、災害時には孤立する可能性がある地域だと感じました。

住民の多くは、後方は山に囲まれ、前面に川が流れている危険区域で生活していることには理解されていますが、何が危険なのかについては、理解されていないのが現状でした。

地区の防災マップを作成し、住民の方と実地確認中に土砂災害専門家とともに、危険箇所を具体的に指摘し、危険な現象等を説明しましたが、指摘箇所については、住民の方々には認識されていませんでした。

やはり、普段から見慣れているために、危険を危険とも感じない慣れの状況でした。

専門家等の違った目で見えて、現場で危険箇所等を住民に説明する今回の取り組みは非常に有効であったと思います。

災害時、救援に時間がかかる等を説明し、その間自助・共助で助け合って頂きたい旨、特に早めの避難をお願いし、当該地区を終了しました。

県内には、まだ多くの土砂災害危険地域がありますので、今回の事業を継続していただき、地域住民の安全確保をお願いしたいと思います。

(馬渡 和男 県地域防災アドバイザー)



阿久根市田代中区での説明の様子



－ 検討会担当講師の所感 － (NPO法人鹿児島砂防ボランティア事務局長 種子島氏)

平成22年度に県危機管理防災課主催による地域ぐるみの避難体制検討会が6回開催され、「土砂災害の恐ろしさ」を地域の方々に知っていただくための講師として延べ14名の当協会員が参加させていただきました。

地域の参加者には真剣に耳を傾けていただきました。そして地域アドバイザーの方が指導された地域防災地図作成後の現場での検討においては色々な質問が皆様からあり、そのお互いの会話を通じて地域との一体感みたいなものが芽生えた記憶を覚えています。

さて、現在県内には6千数百箇所の人家に被害を及ぼす恐れのある土砂災害危険箇所があります。県では砂防堰堤の整備などハード対策を進めているものの、莫大な費用と整備に長い年月を要することから土砂災害危険箇所の整備水準は全体の3割程度と低い状況となっています。

また、近年の地球温暖化に伴う気候変動により短時間降雨強度が増加し、その発生頻度も増加してきております。去る3月11日には未曾有の大震災に我が国は見舞われました。

このような情勢の中、私たち砂防ボランティア協会は、地域の皆さまが災害にできるだけ遭わないよう「土砂災害などの恐ろしさ」を知っていただく努力を重ねるとともに砂防施設などの防災点検を通じて今後とも住みよいまちづくりに少しでも貢献できればと思っています。

(NPO法人 鹿児島砂防ボランティア事務局長 種子島 時邦)



出水市豊原自治会での説明の様子（写真右）



土砂災害警戒区域等における地域ぐるみの避難体制検討会開催要領

1 目的

土砂災害警戒区域等を抱える自主防災組織未結成地区を対象に、NPO法人鹿児島砂防ボランティア協会会員や県防災アドバイザーを派遣し、地区住民との危険箇所の防災点検や地域防災地図の作成等を通じて、地域ぐるみの避難体制の検討を行い、自主防災組織の結成促進を図る。

2 主催

地域自主防災組織設立促進協議会，県，市町村

3 共催

NPO鹿児島砂防ボランティア協会

4 実施時期

平成22年6月～平成23年3月(日程調整が済んだ地区から随時開催)

5 実施箇所

北薩地域振興局，大島支庁管内市町村の土砂災害警戒区域等を抱える自主防災組織未結成地区

6 内容

- (1)危険箇所，避難経路・避難場所等の防災点検実施(NPO法人鹿児島砂防ボランティア協会職員)
- (2)地域防災地図の作成・地域ぐるみの避難体制の検討(県防災アドバイザー)
- (3)市町村防災担当者による自主防災組織の結成の働きかけ

7 参加者

- (1)土砂災害警戒区域等を抱える自主防災組織未結成地区の住民
- (2)県（北薩地域振興局又は大島支庁の総務企画課及び土木建築課若しくは建設課，危機管理防災課）
- (3)市町村（防災担当課及び土木担当課）
- (4)その他地域防災推進員等

「土砂災害警戒区域等における地域ぐるみの避難体制検討会」会次第

日時：平成 22 年 11 月 21 日（日）9:00 ～ 12:00
場所：天城町兼久自治公民館

会 次 第

- 1 開会・挨拶（県危機管理防災課，天城町兼久集落防犯パトロール隊長 米村 博文）
9：00
- 2 地域ぐるみの避難体制検討
 - (1)土砂災害警戒区域等についての説明（NPO 鹿児島砂防ボランティア協会）
9：00～9：30（30分）
 - (2)地域防災地図の作成（県地域防災アドバイザー）
9：30～10：30（60分）
 - (3)危険箇所，避難経路・避難場所等の防災点検実施
（県地域防災アドバイザー・NPO 鹿児島砂防ボランティア協会等）
10：30～11：20（50分）
 - (4)防災点検結果に基づく地域ぐるみの避難体制検討（県地域防災アドバイザー）
11：20～11：50（30分）
 - (5)自主防災組織の結成について（天城町） 11：50～12：00（10分）
- 3 閉 会（県危機管理防災課） 12：00

（注）

※内容・時間配分については，当日，変更になる場合があります。

※当日，天城町に大雨・洪水警報等が発表された時などは，延期します。

土石流警戒区域等における
地域ぐるみの避難体制検討会

土砂災害について



NPO法人鹿児島砂防ボランティア

奄美地方における集中豪雨災害(土砂災害)

奄美市における土砂災害(29件)



奄美市

宇検村

川瀬川(次ページ)

山間小川(次ページ)

奄美地方における集中豪雨災害(土砂災害)

龍郷町における土砂災害(11件)



奄美市

龍郷町

大和村

宇検村

瀬6地区(次ページ)

奄美地方における集中豪雨災害(土砂災害)

大和村における土砂災害(8件)



奄美市

龍郷町

大和村

宇検村

大和浜川(大和浜地内)において土石流が発生。 10月20日発生

土砂溜止

山原村後

奄美地方における集中豪雨災害(土砂災害)

奄美市における土砂災害

川渡川(住用町西仲間地内)において土石流が発生

住用の園

10月20日発生

奄美地方における集中豪雨災害(土砂災害)

龍郷町における土砂災害

浦6地区(浦地内)において地すべりが発生し、家屋全壊1戸、半壊1戸、一部損壊1戸、国道が全面通行止めとなった。

崩土除去と大型土嚢設置により交通解放。

土石流発生

06-27-99 12:35:30

真上から見た土石流

がけ崩れ発生

地すべり発生



鹿児島県の主な土砂災害の概要

年	事項
平成元年	台風により垂水市でがけ崩れ。死者2人。
2年	台風により瀬戸内町高丘で土石流災害。死者12人。
5年	鹿児島地方を中心とした集中豪雨等により史上最悪の土砂災害。死者105人。
7年	梅雨により南種子町室永地区で地すべり。死者1人。
9年	梅雨により出水市針原で大規模な土石流災害。死者21人。 台風により田代町鶴園でがけ崩れ。死者3人。
15年	梅雨により菱刈町前目でがけ崩れ。死者2人。
17年	台風14号により垂水市でがけ崩れ。土石流。死者5人。
18年	黒北部豪雨災害により菱刈町、薩摩川内市でがけ崩れ。死者3人。
22年	梅雨により霧島市大窪で土石流。死者1人。奄美地方の集中豪雨によりがけ崩れ等の土砂災害により死者1人、負傷者1人。

鹿児島県における近年の土砂災害



針原川で発生した土石流



既設砂防ダム拡大写真



針原川土砂災害中流部被災状況



針原川砂防ダム



平成17年台風14号による垂水市小谷地区土石流災害

人家の被災状況

流域全景

流域全景

被害状況
死者：3名
全壊：4戸
一部破壊：2戸

A composite image showing the disaster area in the Nagano region. It includes an aerial view of the disaster area with a red line indicating the path of the mudslide, a close-up view of a house completely destroyed by a mudslide, and another view of the disaster area. A text box in the bottom right corner provides statistics on the damage: 3 deaths, 4 total houses destroyed, and 2 houses partially destroyed.